

活動報告

「武蔵野の自然と成蹊の学び」ESD 成蹊フォーラム 2019 開催報告

財城真寿美（成蹊大学経済学部）

I 開催概要

2019年4月7日、「ESD 成蹊フォーラム 2019 武蔵野の自然と成蹊の学び」が開催された。成蹊学園の一貫教育およびESD活動の発表の場の一つとして、2016年から開催しており、今年が4

回目の開催となった。来場者は各校の在校生・在学生とその父母、卒業生、本学（学園）教職員などの学園関係者、そして学外からの来訪者や関連学会の関係者と多様で、約120名を数えた。広報用ポスターは図1、プログラムは表1のとおりである。第1部は「持続可能な社会づくりのための成蹊学園の学び」として、サステナビリティ大賞の表彰式および各校からのESDに関連した活動の紹介があった。そして第2部は、明星大学の高橋珠州彦先生による「「吉祥寺」らしさの源流とは」というテーマでの特別講演であった。さらに日を改めて、高橋先生がガイドツアーをつとめる第3部「吉祥寺ジオツアー」と題したウォーキングツアーを、4月21日に実施した。



図1 ESD 成蹊フォーラム 2019 のポスター

背景画像には、影山廣重製図「吉祥寺全図」1928（昭和3）年を用いた。

II 第1部「持続可能な社会づくりのための成蹊学園の学び」の概要

まず第1部の冒頭に、第1回（2018）年度サステナビリティ大賞の表彰式が行われた。この賞は成蹊学園の学生・生徒・児童を対象に環境活動、国際間の相互交流、地域コミュニティでの取り組みなど、持続可能な将来を視野に入れた優れた活動（将来・未来へつながる学びや活動）を表彰するものである。大賞受賞者は、以下のとおりである。

- ・サステナビリティ大賞（環境リサーチ賞）
成蹊小学校 2018年度5年生
- ・サステナビリティ大賞（復興支援賞）
成蹊高等学校 生徒会震災復興パート

表1 ESD 成蹊フォーラム 2019「武蔵野の自然と成蹊の学び」 進行表

2019年4月7日(日)		
テーマ	所 属	氏 名
開会の辞	ESDセンター所長	池上 敦子
サステナビリティ大賞表彰式		
【第1部】持続可能な社会づくりのための成蹊学園の学び		
高校からの活動報告 「震災復興活動」	成蹊高校生徒会	伊藤さん, 荻田さん
小学校からの活動報告「環境地図から地域を見る」	成蹊小学校社会科教諭	内川 健
成蹊中高での深海魚特別講義 「深海魚に触れて、観察して、作って、食べよう」	東京大学大気海洋研究所助教	猿渡 敏郎
成蹊大学学生ボランティア本部 Uni. の活動紹介	学生ボランティア本部 Uni.	渡辺 明音
けやき循環プロジェクトの活動報告「けやき循環プロジェクトで小中高大そして地域とつながる」	アジア太平洋研究センター	長橋 典子
環境計測に基づく学園省エネルギー化プロジェクト	成蹊大学理工学部教授	小川 隆申
< 休 憩 >		
【第2部(特別講演)】		
“吉祥寺”らしさの源流とは 質 疑 応 答	明星大学教育学部准教授	高橋珠州彦
閉会の辞	ESDセンター副所長	小田 宏信
2019年4月21日(日)		
【第3部(ウォーキングツアー)】		
吉祥寺ジオツアー	明星大学教育学部准教授	高橋珠州彦
司会進行: 財城真寿美(経済学部)		

・サステナビリティ大賞(学術研究賞)

成蹊高等学校 生物部イワナ班

続いて、各校からのESD活動の実践報告が行われた。はじめに、成蹊高校生徒会を代表して、伊藤さんと荻田さんに、サステナビリティ大賞(復興支援賞)を受賞した震災復興活動について紹介いただいた。2011年宮城県宮古市田老町の和菓子屋への支援をきっかけに始まった復興支援活動は、現在も続いており、持続可能な復興支援により、多くの人に防災意識を広めたいとのことであった。次に、成蹊小学校社会科の内川健教諭に、地図教育の実践について報告いただいた。成蹊小学校で古くから続けているフィールドワーク重視の教育の一環として、観察学習や環境地図への取り組みについて、多くの事例・写真とともに紹介いただいた。環境地図の作成に取り組んだ成蹊小学校5年生(2018年度)はサステナビリティ大賞(環境リサーチ賞)を受賞した。続いて、成

蹊学園ESDセンターの客員フェローでもある猿渡敏郎先生(東京大学大気海洋研究所)に、成蹊中学・高等学校で行った深海魚の特別講義について報告いただいた。魚を介して人と自然の関係について深く学ぶ機会となるよう、魚の解剖実習と調理実習を組み合わせた活動を行っていることを紹介いただいた。続いて、成蹊大学学生ボランティア本部Uni.の環境チームリーダー渡辺明音さんが登壇した。Uni.の環境チームでは、公園や緑地、海岸などでの清掃活動、学内のグリーンカーテンの整備などの活動を行っているほか、ボランティア活動を通じて、他の大学やNPO団体と交流を進めているとの紹介があった。さらにESDセンターの実施する2つのプロジェクトについて、アジア太平洋研究センターの長橋典子主宰による樺並木の持続的維持管理「けやき循環プロジェクト」と、成蹊大学理工学部の小川隆申先生による環境計測に基づく省エネルギー化の取り組

み「BEMS (Building Energy Management System) プロジェクト」について報告があった。長橋氏は、成蹊学園の環境資産である櫛を循環・発展させて、学内や地域と連携して、堆肥作りやワークショップを実施していることを報告した。小川先生によるBEMSプロジェクトの報告では、情報図書館の消費電力と館内の温熱環境測定データとの相関から、効率的な空調の運用方法を提案してきたことが紹介された。

III 第2部「“吉祥寺”らしさの源流とは」の概要

第2部は、明星大学の高橋珠州彦先生による「“吉祥寺”らしさの源流とは」と題した特別講演であった。江戸時代になるまで実はほとんど人が住まない荒野だった「吉祥寺」の変遷について、分かりやすくご講演いただいた。「吉祥寺らしさ」について、①直線的な道路は畑作新田開発村の短冊地割の痕跡であること、②吉祥寺に「吉祥寺」という寺はないが、四軒の寺が開墾当初に開山し、現在では地域との深い結びつきがあること、③吉祥寺の商業は農家の副業として発展してきた経緯があり、現在も個性的な店が多いこと、④吉祥寺のシンボルとなっている井の頭公園は、当初健康増進目的で行政が設置したものであったが、その後行楽地として発展させたのは地域住民であった

こと、4つの視点から解説いただいた。参加者からは、「短冊地割の森林は人工林なのか」、「吉祥寺には古代遺跡もあり開墾以前から居住していた人はどうなったのか」などの質問があり、活発な質疑応答が行われた。

IV 第3部「吉祥寺ジオツアー」の概要

2019年4月21日には、第2部でご講演いただいた高橋先生をツアーガイドにお迎えして、「吉祥寺ジオツアー」と称したウォーキングツアーを実施した。成蹊フォーラムでのウォーキングツアー実施は、2017年に続き、今回で2度目となった。

当日は晴天に恵まれ、17名の参加者があった。高橋先生が作成くださった資料を片手に、成蹊学園正門前を出発して、けやき並木～扶桑通り～井の頭通り～井の頭公園～吉祥寺駅～武蔵野八幡神社まで、各所で高橋先生による解説を聞きながら、約3時間のウォーキングツアーとなった。講演でお話いただいた「吉祥寺」の変遷や、直線的な道路と短冊状の地割、井の頭公園の特徴などについて、実際に吉祥寺を歩いてみることで、さらに理解を深めることができた。高橋先生は参加者からの質問に丁寧に答えてくださり、参加者の方もメモをとりながら解説に熱心に耳を傾けていた。